

# 農産 F A X 情報 第 5 号

令和 5 年 7 月 1 5 日  
ゆとりみらい 21 推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

## 1 各作物共通

### ○ドリフト防止対策

- ・ 7 月に入り、強風が吹く日が続いています（7/1 最大瞬間風速 16.6m/秒）。
- ・ 秋まき小麦など、収穫を迎える作物が今後増えてきます。周辺作物へのドリフトに注意しましょう。

#### ドリフト防止のポイント

- ・ 風の少ない、早朝・夕方に防除を行う
- ・ ドリフト低減ノズル等、適切なノズルを使用する
- ・ できる限り作物の近くから散布し、薬剤の飛散を防ぐ

## 2 秋まき小麦

### ○収穫適期の判定

- ・ 子実水分 30% 以下が収穫開始の日安です。
- ・ 本年は乳熟期が平年より 8 日早く、成熟期も早まることが予想されます。ほ場を観察し、仕上がりの早いほ場から収穫を行いましょう。

### ○収穫作業の留意事項

- ・ 倒伏、病害が多発したほ場は、別刈り・部分刈りの対策を行いましょう。
- ・ コムギ縞萎縮病発生ほ場から未発生ほ場へ移動する際は作業機を洗浄し、発生の拡大を防ぎましょう。

## 3 ばれいしょ

### ○疫病、夏疫病の防除

- ・ 疫病は 18~20℃・降雨等による多湿条件で活動が活発になります。また、夏疫病は 26℃前後で活発になり、肥料不足などで植物体の活性が低下すると多発しやすくなります。引き続き気象予報に注意し、予防防除や適正施肥に努めましょう。
- ・ 小麦収穫作業との競合や降雨が予想される場合は、ダブルインターバル薬剤（防除間隔 14 日間）を活用しましょう。
- ・ 本年は生育ステージが早く進んでいる傾向です。塊茎肥大も早まっている可能性が高いため、塊茎腐敗に効果のある薬剤の使用を検討しましょう。

### ○軟腐病の防除

- ・ 本病は高温多湿条件で発生しやすく、倒伏等で茎葉が傷つくと発生が助長されます。気象経過・茎葉の状況に合わせて防除を行いましょう。
- ・ 耐性菌の出現を防ぐため、同一系統の薬剤の連用は避けましょう。特に、オキシリニック酸剤、ストレプトマイシン剤は防除効果が劣ることがあるため注意しましょう。

## 4 てんさい

### ○褐斑病の防除

- ・本病原菌の活動は 25℃程度・湿度 85%以上が最適条件です。
- ・6月下旬から本病の発生が確認されました。引き続き、予防防除に努めましょう。
- ・マンゼブ剤、銅剤を主体とした防除を実施しましょう。また、散布間隔は 14 日以下とし、上記の高温多湿条件となった場合は 10 日以下で防除しましょう。

表 褐斑病の防除例

| 薬剤名          | 希釈倍率<br>(倍) | 使用回数<br>(以内) | 使用時期<br>(収穫前) | 成分                 |
|--------------|-------------|--------------|---------------|--------------------|
| グリーンダイセンM水和剤 | 400～500     | 5            | 21日           | マンゼブ               |
| どさんこスター水和剤※  | 500         | 4            | 21日           | フェンブコナゾール<br>・マンゼブ |
| ムケツDX        | 500～800     | 3            | 21日           | マンゼブ<br>・メチルトラプロール |
| カスミンボルドー※    | 800         | 5            | 7日            | カスカマイシン<br>・銅      |

※DMI剤・カスカマイシン剤は耐性菌が確認されているため使用回数を可能な限り低減する。

※マンゼブ剤の使用回数に注意してください。

## 5 豆類

### ○菌核病、炭疽病、灰色かび病の防除

- ・菌核病、炭疽病は開花期以降の多湿、灰色かび病は低温多湿で発生が多くなるため、気象経過や生育ステージに注意して防除を行いましょう。
- ・小豆、菜豆の灰色かび病 1 回目の防除開始目安は開花 1 週間後です。その後 7～10 日おきに 3 回実施しましょう。
- ・灰色かび病はチオファネートメチル水和剤、フルアジナム剤、ジカルボキシイミド系剤に対する耐性菌が認められています。適切な防除を実施しましょう。

### ○さび病対策

- ・本病は被害茎葉が感染源となり、多湿土壌で生育初期の感染が多発するとされています。短期輪作ほ場や、過去に発生があったほ場は予防防除を行いましょう。

### ○コガネムシ、ハムシの発生

- ・一部大豆生産ほ場でコガネムシやハムシが多発しているため、注意してほ場を観察しましょう。

◎水分・塩分補給で熱中症対策！！

◎適度な休憩・休息で、農作業事故防止！！！！